

大腸菌濃度のモデル計算結果を活用した お台場海水浴予報システムの試行と今後の課題

○森田 健二^{1,*}・市橋 拓弥²・古米 弘明³

¹特定非営利活動法人 海辺つくり研究会 (〒220-0023 横浜市西区平沼2-4-22) , E-mail: morita_kenji@hotmail.com

²港区 芝浦港南地区総合支所 協働推進課 (〒105-8516 東京都港区芝浦1-16-1)

³正会員 東京大学大学院 工学系研究科 (〒113-8656 東京都文京区本郷7-3-1)

降雨後のお台場海浜公園における大腸菌濃度のモデル計算結果を活用した海水浴予報システムを構築し、港区が主催してきている海水浴イベントの開催の可否を判断する試行を進めている。2018年のイベントでは、計算された数値に対して実測値が同程度以下となり、水浴場基準値に照らした開催可否判断との間に矛盾は生じなかった。しかし、続く2019年のイベントでは小潮期-少雨時や連続降雨後の計算値が実測値を下回っていた。2020年の実測値を含めて検討した結果、上げ潮転流時には海面下3m付近まで汚染水塊が及ぶことから、隅田川だけでなく目黒川や芝浦運河からの汚濁流出水の影響を受ける可能性が示唆された。予報システムに用いている数値モデル計算のメッシュサイズは100m×100mで対象とするお台場海浜公園の開口部に比して大きく、雨天時越流水による汚染水塊の公園内への流入状況を的確に反映しきれていない可能性が高い。

Key Words : *Combined Sewer Overflow, Escherichia coli, forecasting for bathing water quality, Odaiba seaside park*